

スーパー耐久シリーズ 2026 第 3 戦富士 24 時間レース 95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」、トラブルを乗り越え 4 位フィニッシュ



6 月 5 日(金)～7 日(日)に富士スピードウェイ(静岡県駿東郡 4.563km)でENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第 3 戦「NAPAC 富士 24 時間レース」が開催され、95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」(小松一臣/小出峻/三井優介/小松響/中島保典)は、予選 ST-2 クラス 5 位から決勝をスタート。すぐに 3 番手争いをするポジションまでアップするも、リアガラス破損という想定外のトラブルに見舞われ 7 位までポジションダウンしてしまいます。その後はノントラブルで走行を続け 4 位まで順位を上げ総合 22 位、ST-2 クラス 4 位でフィニッシュラインを通過しました。

第 3 戦の予選は 5 日(金)の 12 時 10 分から、やや厚めの雲に覆われ、気温、路面温度とも 20℃というコンディションの中、全クラス同時スタートで行なわれました。開幕から 2 連勝の 95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」は 50Kg のサクセスウエイトを搭載しての出走ゆえ、A/B ドライバーの合算タイムの結果は、クラスポールから約 3.0 秒差の 5 番手ポジションからのスタートとなりました。

翌 6 日の決勝は、スケジュール通り 15 時にスタート。天候は前日同様曇りで、気温は 23℃、路面温度は 36℃に上昇しています。スタートドライバーの小松一臣は 4 周目にポジションを 4 位にあげ、その後 225 号車 GR YARIS と熾烈な 3 位争いを展開しましたが、19 周目に原因不明のリアガラス破損が発生。1 回目のルーティンピットにてタイヤ 4 本交換と併せてガラス破片除去と応急処置を施し小出に交代。約 13 分をロスしてピットアウトし、7 位でコースに復帰しました。その後は順調にラップを重ね、2 回目ピットで三井に交代後、三井、小松響、小出、小出、三井、三井、小松響とつなぎ、4 時 46 分の 9 回目ピットでメンテナンスピットを実施。ブレーキパッド交換と併せ、ダンボールとガムテープで応急処置されたリアガラスの補強補修作業も実施し、ドライバーは小松響のままピットアウトしました。ダンボール製の補修素材は、強度が不足するためサイドウィンドウを開けての外気導入が出来ず、車内温度の上昇がドライバーの体力を奪っていったようです。

その後、小松一臣、小出とつなぎ、残り 6 時間となった時点で 530 周を消化し、4 位にポジションを上げました。同時刻に雨が降り始め、路面を濡らしはじめるも本降りとはならず、12 回目のピットインでもスリックタイヤをチョイスして小出がそのままドライブしました。13 回目小出から小松一臣、小松響、そしてアンカーの小井とつなぎチェッカーを目指しますが、最後にピット作業違反の判定を受けて 60 秒のペナルティストップが課されてしまいます。しかし、順位には変動なく、「SPOON リジカラ CIVIC」は 24 時間で 708 周を走破し、総合 22 位、ST-2 クラス 4 位でチェッカーを受けました。

原剛チーム監督コメント

「序盤にリアガラスが割れたこと、そこに尽きるかなと。割れた原因は追求中です。修復に 13 分 7 ラップを要し、そのまま結果に残ってしまいました。しかし、雨も降らず SC もなかった富士 24 時間は、おそらく初めてですね。リアガラスにフィルムを貼るなどして破損防止対策を施して次の SUGO に臨みます」

小松一臣コメント

「スタートして程なくパスンって変な音がして、後ろ向いたらリアガラスがなかったんです。サイドウインドウも両方とも 5cm ぐらいしか開けてなかったので、コクピット内の圧が高かったわけでもない。空力的に大きな変化があったわけではないですが、アンダーステアが強くなりました。また、ダンボールで修復したので、雨が降ったら嫌だなあと思いながら走りました。次の SUGO は攻め甲斐があって好きなので、楽しみです。今回息子と一緒にレースをさせてもらったのですが、親としてはクラッシュしたりしてチームに迷惑かけずに終わられ、ホッとしています」

小出峻コメント

「意外と何も起きない淡々としたレースだったなっていう感じですね。僕らは最初にあのトラブルがあったので、それを引きずってしまいましたね。次の SUGO は、スピード勝負という感じになるので、意地でも負けたくないという思いはあります。しっかりそこにはチームみんなで話し合っ、調整して、予選決勝と良い流れでレースしたいなと思っています」

小松響コメント

「初めてチームスプーンに参加して、いろいろありましたけど、自分自身は思ったように普通に走れました。テストで初めてこのシビックに乗ったんですけど、いざレースとなると、思ったのとは違う部分もあって、そのこの合わせ込みがちょっと苦労した部分でした。今回 3 スティント担当させてもらったので、最終的にはうまく合わせ込みができたと思います。自分のスティントでは、無事にトラブルとかもなかったもので、良かったです。父と走るの初めてではないのですか、うまく連携できたし楽しい経験でした」

三井優介コメント

「去年は悔し泣きで終わっていたので、今回は笑顔で終わればいいなと思っていました。その点では、すごく良かったのかなって思います。トラブルの修復作業や他のピットワークなど、メカさん達もすごくスムーズにできていましたよね。また、僕個人は、ドライバーとしても大きなミスはなかったんですけど、もうちょい詰められるところがあったと思います」

甲斐琢也チーム代表コメント

「24 時間という長いレースを、ドライバー、メカニック、スタッフ全員が無事に走り切ることができ、まずは応援して下さった皆さま、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。序盤にリアガラスが割れる想定外のトラブルがあり、そのロスが最後まで響く悔しい結果となりました。一方で、上位チーム、ライバルチームの皆さんは本当に速く、強かったです。最後までチャンスを待ちながら走り続けましたが、付け入る隙のない素晴らしいレースでした。入賞されたチームの皆さま、おめでとうございます。悔しさはありますが、この経験を通じて TEAM SPOON はさらに団結し、強くなれたと感じています。次戦こそ勝利を目指し、チーム一丸となって戦ってまいります」

第 4 戦は 7 月 4 日～5 日にスポーツランド SUGO で 4 時間レースとして開催されます。

